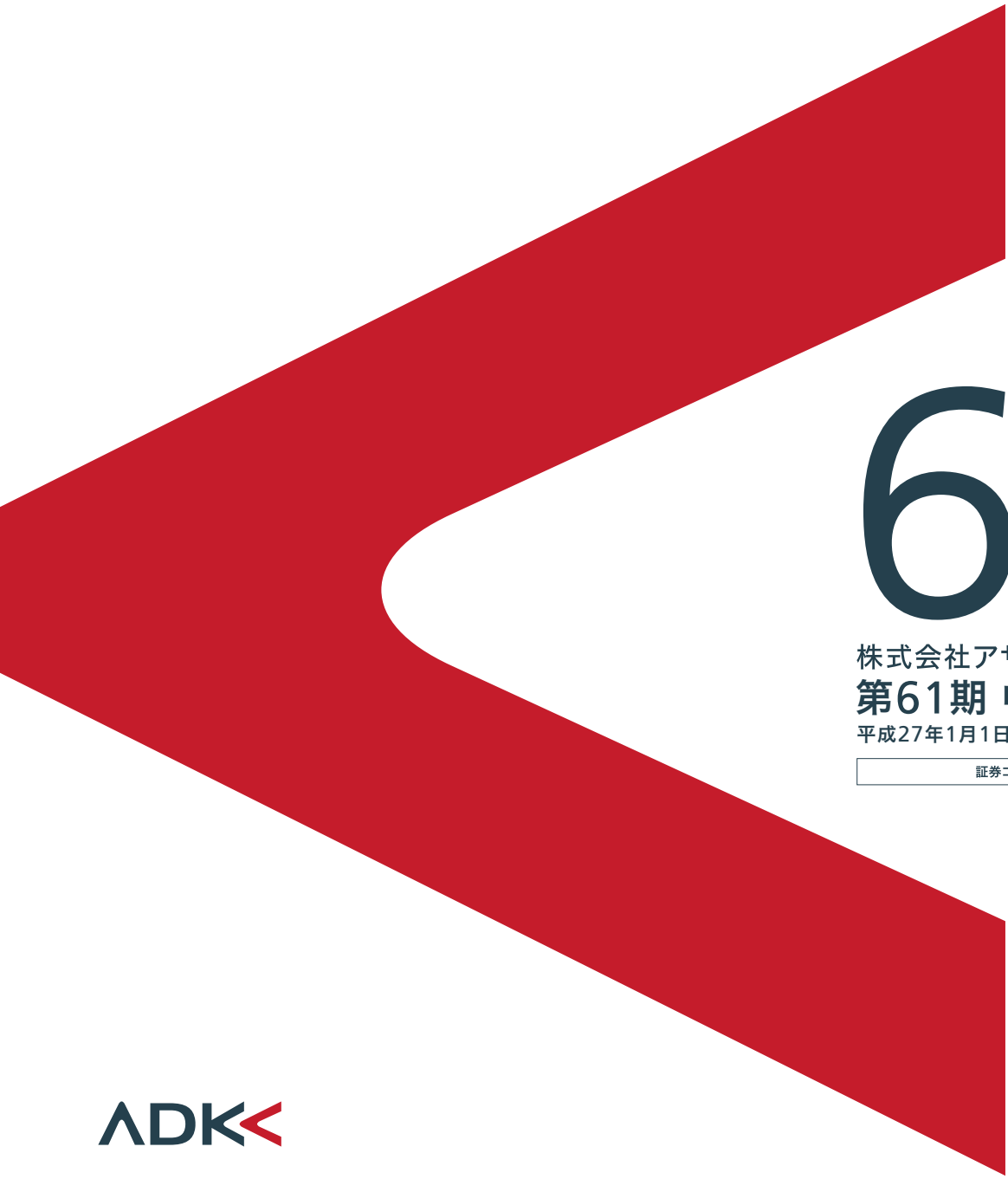




61

株式会社アサツー ディ・ケイ
第61期 中間報告書
平成27年1月1日～平成27年6月30日

証券コード:9747

ADKは、 コンシューマー・アクティベーション・ カンパニーです。

デジタル技術の発展によるメディアやコミュニケーション・デバイスの多様化に伴い、消費者の生活行動や購買行動が急激に変化しています。また、今日のグローバルな競争環境の中で企業が成功するためには、技術・製品力に次ぐ新たな力が必要とされています。それは、日々変化しつづける消費者を、新しい情報テクノロジーによって確実に捉えるマーケティング力、消費者を惹きつけて離さないブランディング力、そして消費者を実際に動かすアイデア力だと、私たちADKは考えます。

Data Insight

消費者に行動を起こさせる、その動機となるものは何か。私たちは、蓄積されたデータと高度な分析力から、インサイトを見つけ出し、消費者を動かすアイデアを生み出していきます。

Content Business

単に番組の広告枠を買切るだけでなく、番組の企画・制作から、キャラクターの商品化／広告販促使用、劇場公開映画でのタイアップ、海外への番組販売にも注力。ミュージカルやライブ事業も手掛け、多様な体験を提供するビジネスを展開しています。

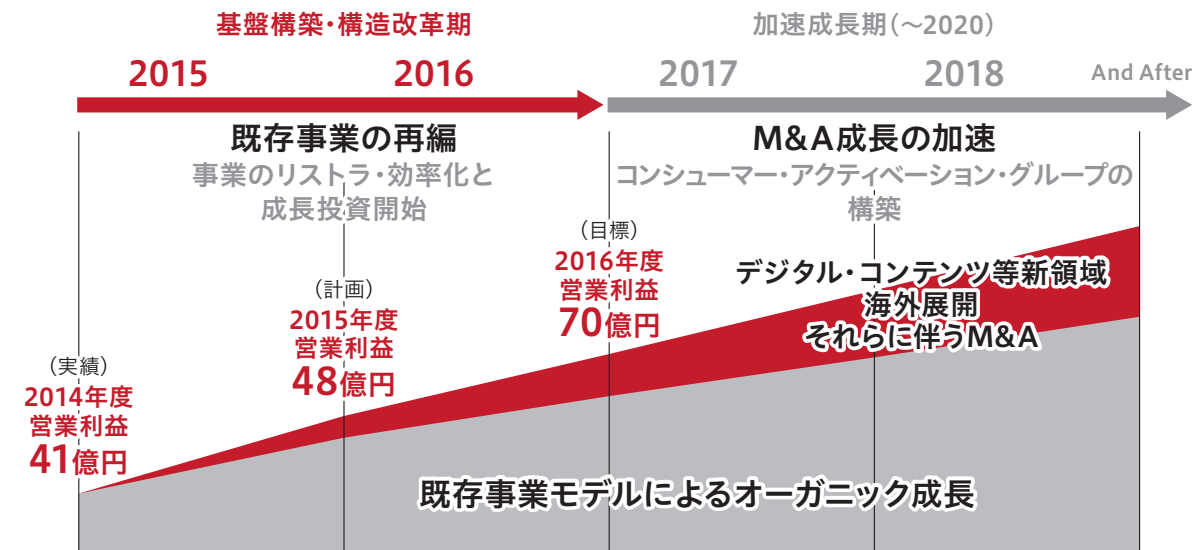
Global

WPPとの資本・業務提携を活用し、業界屈指のメディア調達力、幅広いデータベース、そして世界の隅々を網羅するネットワークを構築しています。これらをベースに、ADK独自のプログラムで、広告主のマーケティング投資効果の最大化を図ります。

Creative

ADKのクリエイティブに求められているものは、消費者を動かすためのアイデアと表現。この当たり前のことを「徹底」するために、常に「これは世の中をゆさぶるものなのか」という自問自答を繰り返し、クリエイティブディレクターを中心に個のアイデアを磨き上げていきます。

<《VISION2020》中長期的な成長イメージ<



<資本・財務戦略>

—ROEの改善—

・中長期的に株主価値を高める方針とする(中期的目標:8%以上)

—資本の最適化—

・余剰資本の株主還元や不要資産売却を通じスリムな資本構成とする
・配当・自己株式取得等の実施



VISION2020の実現
世界標準の
企業グループへ

<成長戦略>

—M&A成長の加速—

・今後数年間で400億円規模の投資を計画
・デジタル・コンテンツ・データマネジメントの領域で投資を進める

—WPPグループとの
協調関係の強化—

< 通期連結業績の見込み

当第2四半期の連結業績は前年同期を上回り、通期業績予想値に対しての営業利益進捗率は60%となるなど、概ね順調に推移しています。第3四半期以降についても、個人消費の改善が継続するか慎重に見極める必要があるものの、国内における景気回復基調は変わらず、中長期的な広告市況は底堅く推移すると予想されます。

以上より、通期連結業績予想値につきましては、平成27年2月13日に公表した業績予想を変更しておりません。

売	上	高	358,000	百万円
営	業	利	益	4,800 百万円
経	常	利	益	7,770 百万円
当	期	純	利	益 4,750 百万円
1	株	当	り	当期純利益 113.14 円

(注) 上記の数値は、平成27年8月13日に公表いたしました平成27年12月期第2四半期決算短信の情報を基に記載しているため、その後に公表される訂正情報や業績予想修正に関する最新の情報等を厳密に反映していない場合がございます。これらの情報につきましては、当社ウェブサイトにてご確認ください。



第61期(平成27年12月期)の 第2四半期決算について ご報告申しあげます。

代表取締役社長・グループCEO 植野 伸一

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、第61期第2四半期（平成27年1月1日から平成27年6月30日まで）を終りましたので、ここに事業の概況をご報告申しあげます。

当期間の我が国経済は、欧州における債務問題や中国株式市場の混乱など、世界経済の動向は不安要素を抱えるものの、政府および日本銀行の継続的な経済対策や金融政策を背景とした株高・円安の定着と企業収益の改善がみられました。それに伴い、雇用環境の改善や賃上げの動きが広がりつつあり、消費税

率引き上げや物価上昇の影響で低迷していた個人消費においても、徐々に回復の兆しが出ております。

広告業界においては、経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、2015年の広告業における売上高実績は、5月までの累計期間で前年同期間を上回るなど、概ね堅調に推移しています。

このような環境の下、当社グループは消費者にメッセージを伝えるだけでなく、具体的に消費者を動かし、クライアントのビジネス成果に貢献する「コンシューマー・アクティベーション・カンパニー」への転換を目指す

「VISION2020」を掲げ、2016年末までを基盤構築・構造改革期、2017年から2020年末までを加速成長期と位置付けております。当第2四半期においては、当社単体においてソリューション基盤の整備や収益管理体制の強化を継続するとともに、グループ各社において、内製化の推進、インフラの共通化、コストコントロールなど、グループ基盤の構築・構造改革を推し進めました。

これらの結果、当第2四半期における連結売上高は1,751億8百万円（前年同期比0.4%増）、売上総利益は244億96百万円（前年同期比0.5%減）、営業利益は29億36百万円（前年同期比38.0%増）となりました。これに受取配当金をはじめとした営業外収益23億35百

< 配当について

当社は、平成26年12月期より、配当政策を配当性向基準から総還元性向基準に変更し、自己株式取得を含む年間総還元性向の目安を連結当期純利益の50%に設定いたしました。1株当たり年間配当の下限は引き続き20円といたします。中間と期末の割り振りとしては、中間基準日配当は従来どおり安定的に10円を原則とし、期末基準日配当は10円または年間総還元性向50%の目安を達成する金額のいずれか高い額といたします。

万円および営業外費用1億14百万円を計上した結果、経常利益は51億57百万円（前年同期比30.0%増）となりました。また、特別利益を4億6百万円計上したことに加え、前年同期に発生した事務所移転費用が減少し、特別損失が1億17百万円となった結果、税金等調整前四半期純利益は54億46百万円（前年同期比118.9%増）、四半期純利益は31億55百万円（前年同期比151.4%増）となりました。

当社グループは、更なる成長を実現させるべく、これまで以上に企業体質の強化を進めてまいり所存でございます。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

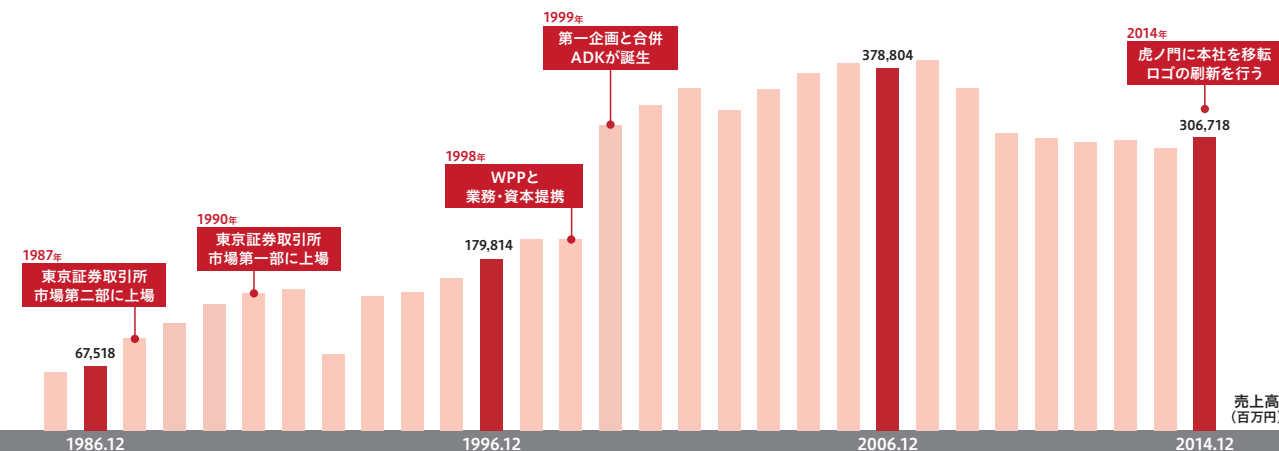
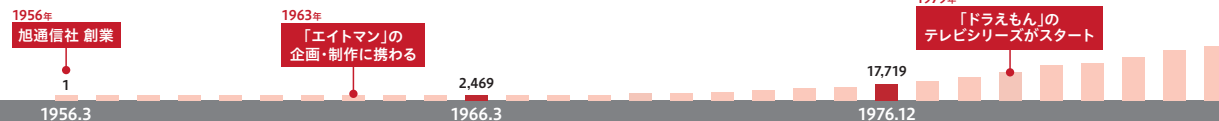
平成27年9月

なお、当面配当回数は従来どおり年2回とする見込みであります。

中間基準日配当金	1株当たり 10円
支払開始日	平成27年9月14日

創業者 稲垣正夫と アサツー ディ・ケイの歩み

去る2015年4月16日、
当社創業者である稲垣 正夫が逝去いたしました。92歳でした。
私たちは、創業者の精神を受け継ぎ、いっそうの飛躍に向け、歩み続けていきます。



< 創業、そして「雑誌のアサツー」「アニメのアサツー」へ

1922年愛知県豊橋市に生まれた稲垣は、青年時代に中国の文化、歴史や東洋思想を学び、一時期を中国大陆で過ごしました。戦後、外務省勤務などを経て、1956年に旭通信社を創業。先行する大手に対抗すべく、稲垣は雑誌広告に資料請求ハガキをつけるなど前例のないアイデアを次々と打ち出して業績を拡大し、会社は「雑誌のアサツー」と呼ばれるようになりました。

1963年からは、「エイトマン」を皮切りに、当時はまだ少なかった国産のテレビアニメの企画・制作に携わり、コンテンツビジネスの先駆者として、「アニメのアサツー」として知られるようになりました。

1979年からは「ドラえもん」のアニメビジネスに携わり、長きにわたり国民的キャラクターと歩みをともにしてきています。



1956年 創業間もない頃、兜町にて



©藤子プロ・小学館・テレビ朝日・シンエイ・ADK
1979年「ドラえもん」の企画・制作に携わる



1998年 WPPと業務・資本提携を結ぶ

< グローバル市場をめざして

稲垣は、中国との深い結びつきを活かし、いち早く会社を中国市場に進出させたのみならず、早くからグローバル市場を視野に入れていました。80年代から90年代にかけて、ヨーロッパ・アジアに次々と拠点を構える一方で、グローバルな広告会社と提携し、ネットワーク拡充に尽力していきました。1998年には、世界最大の広告グループを形成するWPPと業務・資本提携を行い、現在に至っています。

< 会社の成長を支えた「全員経営」

旭通信社の急成長を支えた稲垣の経営理念が「全員経営」です。全員経営とは、経営者トップを始め全社員が「経営者意識」を持ち「一丸」となって仕事に打ち込み、高い実績を上げ、それぞれが豊かな果実を得られるようにするという経営方針です。

この理念のもと、旭通信社はめざましい成長を続け、1973年には売上規模で国内広告業界のトップ10入りを果たし、1997年には第三位の地位を確立しました。

< 広告業界で初めて、東京証券取引所へ上場

旭通信社は、1987年に東京証券取引所市場第二部へ上場、90年には市場第一部銘柄に指定されました。創業以来、次々と「業界初」を成しとげてきた旭通信社ですが、上場も、広告業界では初めてのことでした。

< 第一企画と合併、アサツー ディ・ケイが誕生

1999年、旭通信社は第一企画と合併。アサツー ディ・ケイ (ADK) が誕生しました。両社合併後、2002年に中央区築地の「ADK松竹スクエア」へ本社を移転し、ADKのオフィスはひとつにまとまりました。

< コンシューマー・アクティベーション・カンパニーを目指す

創業から半世紀あまり、インターネットの普及とデジタル技術の躍進により、広告を取りまく環境は大きく変化しました。もはや、テレビや新聞・雑誌など、従来のマスメディアを通じてメッセージを伝えるだけでは、広告には十分にその役割を果たせなくなりました。

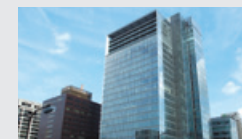
2013年に社長に就任した植野伸一は「VISION2020」を発表。ADKは、従来の広告ビジネスの枠に留まらず、消費者を動かし、クライアントのビジネス成果に貢献する「コンシューマー・アクティベーション・カンパニー」へと変革することを宣言しました。翌2014年には、虎ノ門ヒルズに本社オフィスを移転。同時にコーポレートロゴを刷新し、変革への意欲を示しました。

そして、ADKがコンシューマー・アクティベーション・カンパニーへと変革する基盤づくりを着実に進めていた矢先、稲垣がこの世を去りました。稲垣の死は、会社にとって大きな損失ではありましたが、全社員に、ADKのDNAである「全員経営」の哲学と、前例のないことに果敢に取り組むチャレンジ精神を思い出させてくれました。

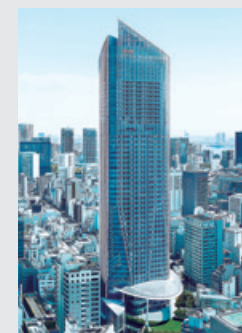
ADKは、来年、創業60周年を迎えます。私たちは、創業者の精神を受け継ぎ、いっそうの飛躍に向け、歩み続けていきます。



1999年 第一企画と合併し、ADKへ



2002年 ADK松竹スクエアに移転

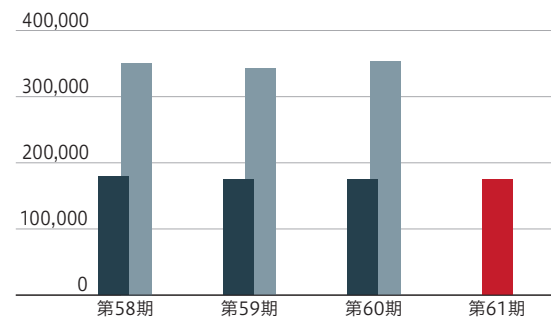


2014年 虎ノ門ヒルズに移転

＜ 連結決算の概況

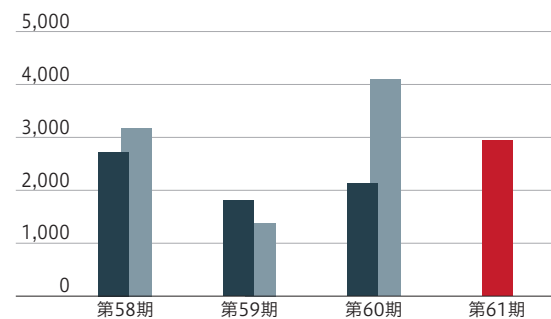
＜ 売上高

(単位:百万円)



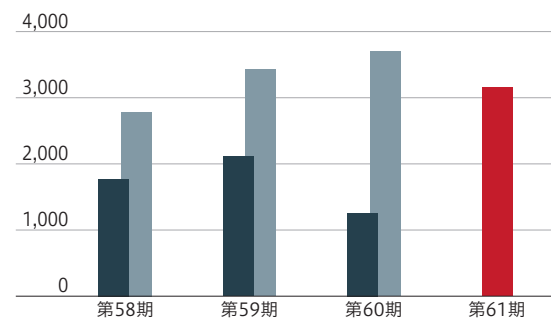
＜ 営業利益

(単位:百万円)



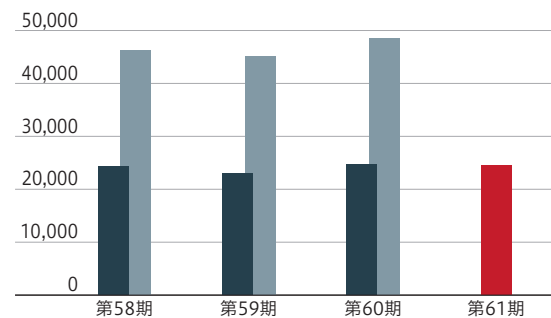
＜ 四半期(当期)純利益

(単位:百万円)



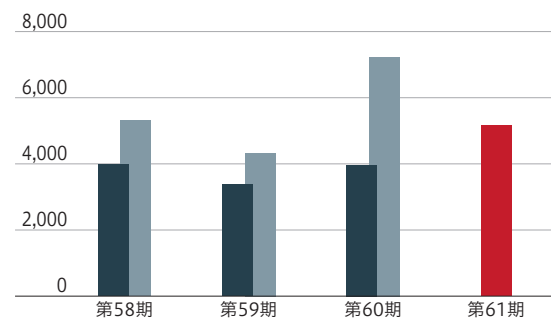
＜ 売上総利益

■ 第2四半期累計 ■ 通期
(単位:百万円)



＜ 経常利益

(単位:百万円)



＜ 損益関連

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成27年 1 月 1 日から 平成27年 6 月30日まで)	前第2四半期 (平成26年 1 月 1 日から 平成26年 6 月30日まで)
売上高	175,108	174,489
売上総利益	24,496	24,625
営業利益	2,936	2,128
経常利益	5,157	3,966
四半期純利益	3,155	1,255

＜ 資産関連

(単位:百万円)

	当第2四半期末 (平成27年6月30日現在)	前期末 (平成26年12月31日現在)
流動資産	113,500	137,205
固定資産	114,812	106,112
負債合計	104,705	108,317
純資産	123,607	134,999
総資産	228,313	243,317

資産関連増減POINT

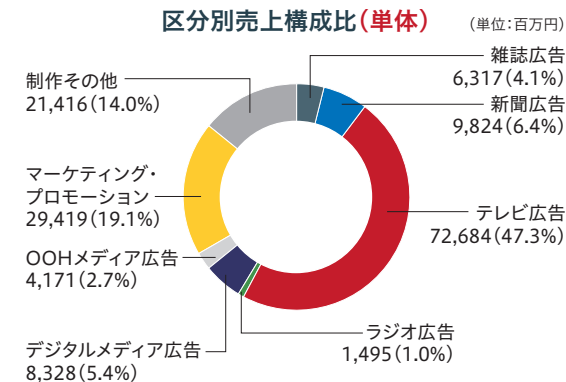
- 資産合計は、時価の上昇による投資有価証券の増加の一方で、受取手形及び売掛金の減少、配当金の支払いに伴う現金及び預金、有価証券の減少などにより、前連結会計年度末に比べ150億4百万円減少の2,283億13百万円でありました。
- 負債合計は、支払手形及び買掛金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ36億12百万円減少の1,047億5百万円でありました。
- 純資産合計は1,236億7百万円、少数株主持分および新株予約権を除いた自己資本比率は53.6%でありました。

＜ キャッシュ・フロー関連

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成27年 1 月 1 日から 平成27年 6 月30日まで)	前第2四半期 (平成26年 1 月 1 日から 平成26年 6 月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	9,864	9,265
投資活動による キャッシュ・フロー	1,046	△3,197
財務活動による キャッシュ・フロー	△23,347	△5,739
現金及び現金同等物 の期末残高	22,609	32,829

〔ご参考〕



- (注) 1. 広告市場の成熟化やメディア環境の多角化に伴い、当社は広告主にクロス・コミュニケーション・プログラムを提供しており、区分別の売上を厳密に分別することが困難な場合があります。従って、上記の区分別売上は、厳密に各区分別の売上を反映していないことがあります。
2. 「テレビ広告」には、タイム、スポット、コンテンツより構成されます。
3. 「デジタルメディア」には、インターネット、モバイル関連メディアなどが含まれます。(WEBサイト制作・システム開発などデジタルソリューションは「マーケティング・プロモーション」に含まれます。)
4. 「OOH(アウト・オブ・ホーム)メディア」には、交通広告、屋外広告、折込広告などが含まれます。
5. 「マーケティング・プロモーション」には、マーケティング、コミュニケーション・プランニング、プロモーション、イベント、PR、博覧会事業、デジタルソリューションなどが含まれます。

< 会社の概要

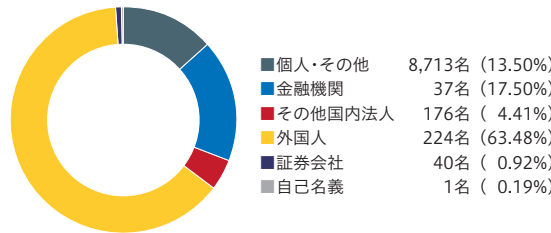
商号	株式会社アサツー ディ・ケイ
英文表記	ASATSU-DK INC.
略称	ADK
本店所在地	〒105-6312 東京都港区虎ノ門一丁目23番1号 03-6830-3811(代表案内)
設立	昭和31年3月19日
資本金	375億8,136万6,100円
従業員数	1,879名(単体)
ウェブサイト	http://www.adk.jp

< 取締役および監査役

平成27年6月30日現在

代表取締役社長・グループCEO	植野 伸一
取締役	加藤 武
取締役	大芝 賢二
取締役	中井 規之
取締役	スチュアート・ニーシュ
社外取締役・取締役会議長	木戸 英晶
社外取締役	木下 俊男
監査役(常勤)	本橋 信之
社外監査役(常勤)	大西 義威
社外監査役	吉成 昌之
社外監査役	首藤 恵

< 保有者別分布 (株式数比率)



(注) 株式数比率は、小数第3位を四捨五入して表示しております。

< 株式の状況

■発行可能株式総数	206,000,000株
■発行済株式の総数	42,155,400株
■株主総数	9,191名

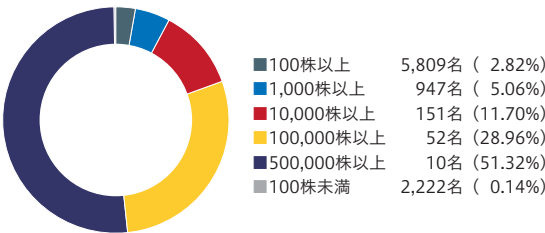
(注) 発行済株式の総数には自己株式(82,082株)を含んでおります。

< 大株主の状況

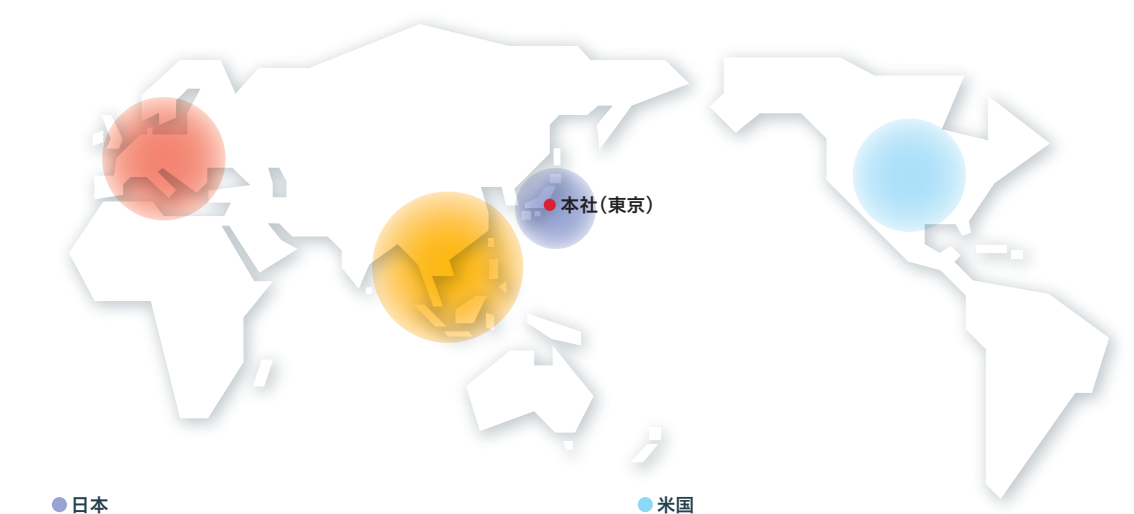
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
ダブリュービービー インターナショナル ホールディングビーヴィ	10,331	24.51
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	2,545	6.04
ノーザントラスト カンパニー エイブイエフシー リ ユーエス タックス エグゼンプテド ベンション ファンズ	1,585	3.76
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン エスエーエヌブイ 10	1,333	3.16
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,218	2.89
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,162	2.76
ノーザントラスト カンパニー (エイブ イエフシー) アカウント ノントリーティ	1,059	2.51
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	946	2.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・三菱商事株式会社口)	765	1.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口 9)	690	1.64

(注) 持株比率は、小数第3位を四捨五入して表示しております。

< 保有株式数別分布 (株式数比率)



< 連結対象会社の状況



● 日本

- 株式会社協和企画(東京都港区)
- 株式会社ADKインターナショナル(東京都港区)
- 株式会社ADKアーツ(東京都港区)
- 株式会社ADKダイアログ(東京都港区)
- 株式会社エイケン(東京都荒川区)
- 株式会社ADKデジタル・コミュニケーションズ(東京都港区)
- 株式会社ライトソング音楽出版(東京都港区)
- 株式会社日本文芸社(東京都千代田区)
- 株式会社バイオメディス インターナショナル(東京都港区)
- 株式会社ADK保険サービス(東京都港区)
- 株式会社ディーライツ(東京都千代田区)【新規】
- 株式会社中国物語(東京都港区)【新規】
- 株式会社DAサーチ & リンク(東京都中央区)
- 株式会社ドリル(東京都渋谷区)
- 株式会社エイエスピー(東京都新宿区)
- 株式会社プレミアム・クロスバリュ(東京都千代田区)

● ヨーロッパ

- アサツーヨーロッパホールディング(アムステルダム)
- アサツーヨーロッパ(アムステルダム)
- ノッツヨーロッパ(アムステルダム)
- アサツードイツ(フランクフルト)

● 連結子会社

● 持分法適用会社

(注) 連結対象会社の内訳は、連結子会社が39社であり、持分法適用会社が7社であります。

● 米国

- エイディケイアメリカ(ニューヨーク)
- サンライツ(ニューヨーク)【新規】

● アジア

- アサツー ディ・ケイホンコン(香港)
- ディケイアドバタイジング(香港)
- 旭通世紀(上海)广告有限公司(上海)
- 上海旭通广告有限公司(上海)
- 旭通(上海)展覧广告有限公司(上海)
- 北京IMMG国際文化伝媒有限公司(北京)
- 聯旭國際股份有限公司(台北)
- 太一廣告股份有限公司(台北)
- アサツー ディ・ケイシンガポール(シンガポール)
- スクープアドワールド(シンガポール)
- IMMGシンガポール(シンガポール)
- IMMGインドネシア(ジャカルタ)
- エイディケイタイホールディング(バンコク)
- アサツータイランド(バンコク)
- アズディック(バンコク)
- ダイイチキカクタイランド(バンコク)
- アサツー ディ・ケイマレーシア(クアラルンプール)
- ダイイチキカクマレーシア(クアラルンプール)
- アサツー ディ・ケイベトナム(ホーチミン)
- ディアイケイベトナム(ホーチミン)
- アサツー ディ・ケイコリア(ソウル)
- 広東広旭广告有限公司(広州)
- 北京東方三盟公共關係顧問有限公司(北京)
- 奥旭(上海)市場營銷服務有限公司(上海)【新規】

< 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
1単元の株式数	100株
剰余金配当の基準日	毎年6月30日および毎年12月31日 この他、必要があるときはあらかじめ公告して定めます。
株主総会の基準日	毎年12月31日 この他、必要があるときはあらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区大手町二丁目6番2号(日本ビル4階) 東京証券代行株式会社 なお、お取次は三井住友信託銀行株式会社全国本支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザ・i-Stationを除く。)にて行っております。
同連絡先	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター ☎ 0120-49-7009
公告方法	電子公告(http://www.adk.jp) ただし、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株式に関する 手続きのご案内	①ご住所等、各種株主様情報の変更に関する届出 ②配当金の受取方法のご指定 ③単元未満株式の買取・買増請求 ①～③のお手続きに関しましては、当社株式を証券会社に開設された口座にてご保有の株主様は、当該証券会社へお問い合わせください。なお、証券会社に当社株式についての口座がないため特別口座が開設された株主様は、上記株主名簿管理人へお問い合わせください。 ④未払い配当金のお支払 ④のお手続きに関しましては、上記株主名簿管理人へお問い合わせください。

ADKのIRサイトでは過去の決算情報、IRカレンダー、本冊子のPDF版など多様なコンテンツを掲載しております。
また、メール配信サービスにご登録いただくことで最新のIRニュースを配信いたします。

ADK IR



www.adk.jp/ir/

